

取組実績の概要 【2ページ以内】

本事業（RJE3：East Russia-Japan Expert Education. 以下、RJE3と表記）では、本学と極東ロシアの基幹5大学（極東連邦大学、北東連邦大学、イルクーツク国立大学、サハリン国立大学、太平洋国立大学）が、北海道や極東ロシア、北極圏の地域自治体、産業界の代表等と日露専門家育成コンソーシアムを構築し、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組として、以下のことを実施した。

1. RJE3プログラムにおける日露共同教育実施体制の確立

■日露大学間連携体制：2014年度に本学にセントラル・オフィス、ロシア5大学に連携窓口となるリエゾン・デスクを設置し、日露双方が学生や教員の派遣のための連絡調整、各大学の実施状況等の情報交換を緊密に行い、実施の効率化を支えた結果、6機関間のネットワーク強化につながった。

■「RJE3コンソーシアム」会議：

事業実施に効果的な役割を果たせるよう、以下の5つの会議をプログラム内に設置し機能させた。

1. **国際運営委員会**：本学、ロシア5協定校の教員と国際交流部局の代表で構成する国際運営委員会を設置し、毎年開催。具体的な交流プログラムの5年間及び毎年の運営方針、予算の確保や交流内容について討議し、プログラムの指導的役割を果たした。
2. **持続的発展研究会**：RJE3修了生と北海道内の自治体・企業関係者が継続的に集い、毎年開催。日露の人材育成成果の共有、参加学生のインターンシップや就職受入可能性等を検討した。
3. **FD実行委員会**：外部講師を招き国際交流事業に関する本学教職員研修を毎年実施した。
4. **教育交流研究会**：ロシアと学術交流を有する道内6大学と情報共有し、日露大学交流に関する意見交換の機会を設けた。隔年で開催。
5. **外部評価委員会**：2016年度に中間評価として外部評価委員会を開催した。5年間の補助期間が終了した翌年である2019年6月に、事業期間全体に対する外部評価委員会を開催し、計画に沿って着実に事業を実施した上、特記すべきGPも生じたことについて高い評価を得た。

■産業界・自治体等との連携：上述した持続的発展研究会以外でも、北海道や札幌市をはじめ、北海道内のロシアとの友好・経済交流、ロシアビジネスに関心を持つ企業、個人事業主等で構成される「北海道・ロシア地域間協力チーム」と情報共有を行い、本事業との連携を図った。

■学内支援体制：RJE3の審議組織として、プログラムに参加する5つの大学院と2つの研究センターの代表教員・教務担当で組織する「学内運営委員会」を設置し、学生の受入および派遣、開講科目に関する検討、予算審議を行った。事務局となる「セントラル・オフィス」は年度計画案の策定、事業実施にあたっての各種手配やロシア5大学との連絡調整を行ってきた。開講科目案については、セントラル・オフィスのスタッフと本事業の実施上の主要教員で構成する「カリキュラム・ワーキンググループ」が策定する体制を取ってきた。

2. 地域専門家人材を育成するための教育カリキュラム

■RJE3教育プログラムは、「準備科目」・「基礎科目」・「専門科目」・「発展科目」の4段階の教育カリキュラムで構成される。数週間から1年間の留学期間を提供しており、学生が開発すべき能力と将来のキャリアプランに合わせて留学期間を選択できるよう多層的に制度設計されている。

■「準備科目」は、長期留学へのモチベーション向上を目的とした取組として位置付けている。2014～2016年度にかけては、ロシア側大学の要請に基づき、本学教員をロシア側大学に派遣し講義を提供する取組みを行い、300～500名ものロシア側学生の参加を得、RJE3の周知を図った。2015～2018年度には、北大生がロシアを知る一歩として4年間で54名をロシア側大学に短期派遣した。

■「基礎科目」は、「概論」と「実習」から構成されており、日露教員が共同で英語により講義を行っている。「概論」は分野横断的な内容を取扱う講義であり、受講生は日露の最先端の学術的視点による知見を習得するとともに、日露学生によるグループ討議・プレゼンテーションを通じて、コミュニケーション力、リーダーシップ力、企画・創造力、多文化理解力を養成することができた。「実習」は専門性の高い国内外のフィールド実習であり、学生は「概論」と併せて履修することによって極東・北極圏の取り組むべき重要課題についての理解を深め、実学的な知見を身につけることができた。「基礎科目」は、本学の大学院共通授業科目として開講し、また、本学が国内外の学生を対象に、夏季に英語で実施する集中コースであるHokkaidoサマー・インスティテュートの形態としても登

録することで、RJE3の枠組みを越えて国内外からの学生も参加できるようになっている。

- 「専門科目」は、留学先大学院の正規科目を充当し、本事業参加者に中長期の留学先での単位取得を可能にした。本学で学生が受講可能な科目は、2018年度には5大学院で32科目まで拡充した。
- 「発展科目」には、日露双方の教員による学位論文指導やインターンシップが含まれる。2018年度には北海道赤井川村にあるキロロリゾートにてインターンシップが実現し、期間中の奨学金、寮費、食費等は株式会社キロロホテルズの支援を受けてロシア側学生4名が3ヶ月間活動に従事した。

3. 厳格な成績管理と学修プロセス

■「基礎科目」共同評価体制の構築

「基礎科目」概論は5日間に渡る集中講義であり、最終日には日露学生の混合グループによる成果発表が行われるとともに、日露教員が共同で課題レポートの評価を行い、単位を付与している。

■「共同修了証」授与基準の設定

日露双方の教員が共同で評価する「基礎科目」の概論と実習の両科目の単位を取得した学生に授与される「RJE3基礎科目修了証」の授与基準は第2回国際運営委員会において審議承認された。本事業期間に「RJE3基礎科目修了証」を授与された学生は、北大生79名、ロシア側学生97名の計176名。

「専門科目」「発展科目」において所定の単位を取得し、在籍大学において学位を取得した学生を対象とする「RJE3共同修了証」授与基準の覚書を、本学とロシア側5大学のそれぞれで締結した。

これまでに「RJE3共同修了証」を授与された学生は、北大生2名、ロシア側学生15名の計17名。

- 「環境評価」「文化的多様性」「土壌と生産」「地域資源開発」「防災管理」の5領域の専門的知識とコミュニケーション力、リーダーシップ力、企画・創造力、多文化理解力の4つの能力の習得を確認するため、日露の受講学生の評価を記録するデータベースと、学生個人の達成度を確認できるよう個別に学生評価シートを作成した。

- 「履修ガイド」を日英両言語で作成しホームページ上で公開した。「基礎科目修了証」授与コースと「RJE3共同修了証」授与コースの2つの履修コースを整備し、学修プロセスの明確化を図った。

4. プログラムから発展した共同学位プログラム

- 本学工学院と太平洋国立大学建築デザイン研究科との間で2017年度にコチュテルプログラムに関する協定が締結され、日露教員による共同の共同博士論文指導が開始した。
- 本学環境科学院と北東連邦大学自然科学研究院との間で2017年度にジョイントマスターコースに関する協定が締結され、共同教育修士コースが開始した。

5. 補助期間終了後について

- 2018年8月に開催された第6回国際運営委員会において、補助期間終了後も、RJE3の取組みを継続することが改めて合意された。2019年度は、本学からの学生派遣については、大学独自の予算を確保し、事業期間と同数の派遣数を維持する。ロシア側の大学から本学への学生の派遣については、滞在費はJASSO奨学金を活用し、渡航費をロシア側大学で負担するよう依頼すると共に外部奨学金を確保して交流規模を出来る限り維持し、これまで培った実績を基に今後も更なる事業の発展を目指す。2018年度から開始したインターンシップについては、今後も引き続き企業からの寄附等協力関係を模索し、新たな外部資金獲得にも取り組む。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※	10人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	110人	125人
実績	5人	35人	27人	25人	35人	24人	34人	23人	25人	25人	126人	132人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**GP1: 日露間のネットワークを持ち、専門知識を備えた人材の輩出**

- ・ RJE3プログラム修了生から**大学教員を9名輩出した**。（ロシア側8名、北大1名）
- ・ ロシア側のRJE3プログラム修了生から北海道大学への進学者(博士課程)を3名輩出した。
- ・ 日露の交流に関連する職に就く学生を輩出した。
北大修了生（7名）：外務省ロシア大使館、ロシア関連商材を扱う商社、ロシア船舶出入港手続の企業、北海道博物館(サハリン博物館との共同研究)等
ロシア側修了生（7名）：日本語教師、大学教員（北大との共同研究）、日本企業と天然ガス等の取引を行う企業等
- ・ その他、RJE3同窓生に行った調査では、以下のような就職状況の回答を得ている：
北大修了生：21名がサービス・インフラ関係（エネルギー関係、建設コンサルタント、設計事務所等）13名がメーカー、7名が官公庁・団体、5名が大学・研究機関(事務職含む)等
ロシア側修了生：24名が大学・研究機関(事務職含む)、24名はサービス・インフラ関係（資源・エネルギー関係、旅行会社、設計事務所等）、5名が官公庁・団体等

GP2: 共同学位システムの設置（ロシアの大学との間で共同大学院コースや共同学位制度の構想を具体的なプログラムとして実現）

RJE3での取組が発展し、本学工学院と太平洋国立大学建築デザイン研究科の間で**コチュテルプログラム**、本学環境科学院と北東連邦大学自然科学研究院の間で**ジョイントマスターコース**が開始。

GP3: 参加学生のRJE3での専門的知見を発表し、受賞した成果

- ・ ポスター賞 日本応用糖質科学会 ・第2回全道通訳コンテスト 優勝
- ・ 北大IGP賞（修士論文発表会） ・北大三上奨学賞（学業優秀賞）等

GP4: 太平洋国立大学開催の国際学会“NEW IDEAS OF THE CENTURY”で「準備科目」派遣生が多数受賞

- ・ GRAND PRIX 3名、・1st DEGREE in nomination “ARCHITECTURE” 10名・1st DEGREE in nomination FOR ALL-ROUND APPROACH TO PROBLEM SOLUTION 2名、・1st DEGREE in nomination FOR THE SOCIAL SIGNIFICANCE 1名、・1st DEGREE in nomination FOR THE BEST PRESENTATION 1名、・1st DEGREE in nomination FOR THE PROBLEM RELEVANCE 2名、・1st DEGREE in nomination FOR THE ORIGINALITY OF THE SUBJECT 1名 等

GP5: これまで参加した学生が多数受賞 事前学習用の電子教材の作成とMoodleを通じた公開

日露双方の教員による北海道と極東ロシア・北極圏に関する分野横断的な概論講義を本学のオープン・エデュケーションセンターの協力を得て収録し、電子教材「RJE3教科書」を作成した。この電子教材は、Moodleを活用して履修者及び関係者限定で配信を行っている。

GP6: RJE3同窓会 Alumniの設立

日露のネットワークが形成され、日露の交流のための活動を積極的に行う学生が現れ、2018年度末に参加学生からの提案により、RJE3履修生で構成する**同窓会**が設立された。同窓会のホームページは、RJE3のホームページ上に設置し、同窓生向けイベント、就職情報、インターンシップ情報等を幅広く発信する。また、**在札幌ロシア連邦総領事館**の協力を得て、会合の開催を予定している。

GP7: RJE3から生まれた日露の関係性の深化事例

- ・ サハリン国立大学国際関係局長のヴィクトル・コルスノフ氏が、本学の広報・交流活動をロシアにおいて推進していく役割を担う**北海道大学アンバサダー**に就任(2018. 11)
- ・ 本事業の本学杉本敦子教授が北東連邦大学より**名誉教授称号**を授与 (2016. 4)
- ・ 本事業の本学加藤博文教授がイルクーツク国立大学より**名誉教授称号**を授与(2019. 3)